

(別添3)

【利根町】 校務DX計画

【現状】

利根町では、令和3年度からグループウェア、出席管理、成績管理、健康管理、体力テストのデータ管理には校務支援システムを、学校と保護者間の出欠確認を含む連絡、及び学校から保護者への文書配布には保護者連絡アプリをそれぞれ導入し、校務のデジタル化を推進している。令和5年度からは、利根町立学校管理規則を改正し、押印の廃止にも取り組んでいる。しかし、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用、FAXでのやり取りの廃止、校務支援システムへの不必要な手入力作業の一扫が一部で進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題】

(1) クラウドツールの未活用

利根町では、保護者連絡アプリを導入し、児童生徒の欠席・遅刻等に関する保護者とのやりとり、学校からのお便り等、学校と保護者を結ぶクラウドツールの活用が進んでいるが、教職員が学校へ提出する事務手続きはクラウド化されておらず、負担となっている。

(2) FAXでのやり取りの見直し

学校ではFAXでのやり取りを基本的に廃止する方針としているが、県教育委員会とFAXでのやり取りが慣行として行われている状況のため、廃止が出来ない状況である。

(2) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一扫

利根町では、保護者連絡アプリを導入しているが、連絡アプリと校務支援システムとの出欠情報の連携ができず、情報を再度入力し直す作業が発生し、教職員の大きな負担となっている。

【取組方針】

現状と課題から利根町では、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

(1) クラウドツールの整備・活用

教職員が学校へ提出する書類についても、グーグルドライブや校務支援システムを活用し、データ提出を推進することで、教職員の業務の負担軽減を図る。

(2) FAXでのやり取りの見直し

FAXは原則使用しない方針とし、県とはメールを使ったやりとりなどで対応できないかを継続的に働きかけていく。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

保護者連絡アプリと校務支援システムの情報を簡単に突合できる仕組みを構築し、教職員の業務負担軽減を図る。